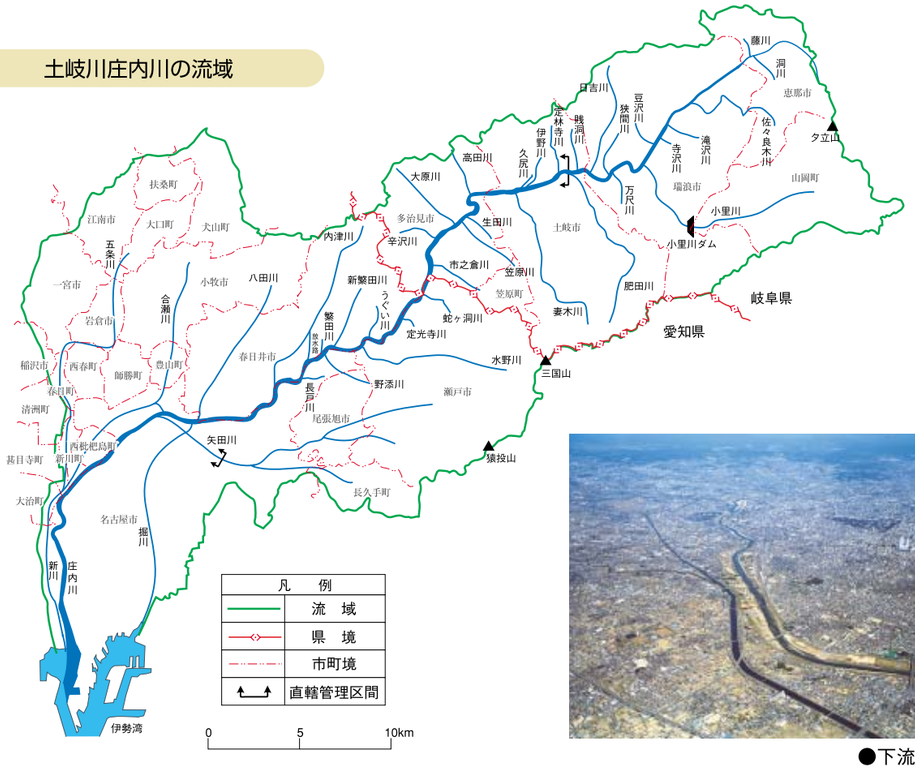
2 土岐川庄内川の概要

土岐川庄内川は、その源を岐阜県恵那郡山岡町の夕立山（標高727m）に発し、東濃地方の盆地と渓谷を貫流して濃尾平野に入り、名古屋の市街地に沿って伊勢湾に注ぐ、幹川流路延長96km、流域面積1,010km²の一級河川です。

流域には、三大都市圏である名古屋市をはじめとする中部地方の経済の中心地を抱え、15市14町、人口約400万人が生活しています。

●上流域

土岐川庄内川の流域



●下流域

土岐川庄内川は、長い歴史の中で豊かな自然を育み、沿川の人々に多くの恵みをもたらしてきた反面、幾多の洪水氾濫を繰り返し、多大な損害も与えてきました。

最近では、瑞浪市や土岐市などの上流に被害を与えた平成11年6月の豪雨と、西枇杷島町や名古屋市に大きな被害を与えた平成12年9月の東海豪雨による洪水があります。

洪水の被害を最小限にとどめるために、古くから治水事業を行っていますが、現在の土岐川庄内川流域は、市街化が進んで人口資産が集積している状況にあり、河川改修に加え、住民一人一人の防災意識の向上と、行政と住民とが一体となった治水への取り組みが必要だと考えています。

●平成12年9月12日浸水状況（西枇杷島町）

土岐川庄内川の水は、工業用水、発電に利用されているほか、農業用水としても使われています。しかし、名古屋圏の水需要はそのほとんどを木曽川に頼っているのが現状です。

●平成12年9月13日浸水状況（丸中橋東付近）

また、流域の都市化が進んだことから、昭和30年代後半頃から、家庭からの生活排水、窯業などの工場排水や農業排水などのために水質が極端に悪化しましたが、昭和46年の水質汚濁防止法の施行により、排水規制や下水道整備などの様々な取り組みが行われ、改善されてきました。しかしながら、現状でもまだ十分とは言えず、それらの排水が上流から下流、そして海にまで影響をおよぼしているため、流域に住む一人一人が流域の一員として川や海を意識し、水環境を改善するために、できることから取り組むことが重要となっています。

一方、自然環境や利用面から見てみると、土岐川庄内川は、上流、中流、下流それぞれに特色ある様相を呈しています。

上流域は、自然のアカマツやコナラの群落、スギの人工林で覆われ、河岸まで樹林が迫る美しい渓谷となっています。

市街化が進む中流域にも、まだ瀬と淵、河原などの環境が残されており、多くの生物を育んでいます。

●庄内緑地（下流域）

下流域は、堤防天端は道路に、高水敷は都市計画緑地、散策路やグラウンドをはじめ、 農地、ゴルフ場など様々な用途に利用されています。河口部にはヨシ原、干潟が広がり、国内最大級のシギ、チドリ類の渡来地として国際的にも重要なことから、干潟部がラムサール条約登録湿地となっています。

このように、土岐川庄内川は、自然環境の上でも生活環境の上でも、都市に残された貴重な空間となっています。

●チュウシャクシギ

●藤前干潟（河口）